

青年会議所とロータリークラブ
―異業種との付き合い―

住職 私が32歳のときに東京青年会議所に入ったのは、植田ご総代にお薦めいただきました。僧侶の世界だけだと同業の人たちの話ばかりなので、広く社会を見なさいということでした。それがおかげさまで青年会議所を卒業して20年で、今年、還暦の会に行きます。

植田 こっちは、卒業して40年ですよ。

住職 (笑) そういうこととして。

植田 私はね、26歳で家業を継がなきゃならなくなつて、しばらくの間は、それはもう悪戦苦闘していましたよ。でも、五、六年たつてみると、やはり何かこのまま家業だけに目をつけていると、人間が小さくなつてしまう世間も狭くなつちゃうと思つているときに知り合いで東京青年会議所という団体があると同じました。要するに、青年経済人の集まりです。ちょうど私と環境が似ている、中小企業の2世とか、そういう人たちが多く入っている団体です。「修練・奉仕・友情」という3つの柱になっていまして、まだ青年ですからトレーニングといって、勉強をするんですね。そういう意味では私は32歳で入り、40で卒業ですから8年間に在籍しました。本当に私はよく勉強させてもらったと思います。

それはリーダーシップトレーニングといつて、指導力開発といいますが、指導者としての心構えとか、松下幸之助さんの話を聞くと

かでしたね。あとはやはり友情です。いい出会いに恵まれたということです。

住職 異業種の方たちとお会いできるというのは大変大きいですね。

植田 同業は集まらないです。やはり利害関係もありますし、衝突する。私、同業のつき合ひは一切していない。青年会議所の中にも時計・宝飾部会がありますが、そこも一切つき合っていない。やはり異業種とつき合うと発想も全然違うでしょう。そういう意味で、最終年度の40のときに理事長をやらせていただきました。それで、「わんぱく相撲」という子供の相撲大会を私が提唱して始めたのが、今も残つているんですよ。貴花田と若花田はそこから出ていっているんです。それは私の1つの遺産ですな。

住職 私は世田谷の担当をさせていただき、担当者になる前に、わんぱく相撲の世田谷の大会実行委員長でした。これは植田ご総代が立ち上げた事業なんだなと思ひながら務めさせていただきました。

植田 それで、ご住職も若くしてなられたわけでしょう。そうすると、仏教界という1つのある意味で特殊な世界の中で、おつき合ひもあるだろうけれども、違う世界、また、檀家の立場とか、そういうものを知るためにもと思つてお誘ひをしたのです。そうしたら、非常にエンジョイされていたということでした。

学校法人の運営について

住職 学校法人の運営ということですが、私がお話を伺ったときに、もちろん宗教の大枠は違うけれども、そのときに深く印象に残っているのは、これからはやはり、お年柄で言うと、ご自分の人生を振り返つたときに1つのステージとして、社会に還元していくという気持ちでこれはやっていきたいということをおっしゃっていました。1つのきっかけは、お嬢様とお姉様ですか。

植田 すぐ上の姉と妹、それから長女の3人お世話になりました。長女が入学したときに評議員を依頼されて、それからその後、監事を頼まれて、それもやはり30年近くになります。ともかくカトリックの学校ですから、シスターといつて、いわゆる修道女さんの理事長が4代続いたのですが、今の時代、シスターのなり手がなくなつてくるんですね。やはり神に仕えて、一生独身でしょう。昔は大家族で子供が多かつた時代は、1人ぐらひは神に仕えてもという考えがあつたのでしようが、今は一人っ子とか2人だけだから…。

住職 そうですね。

植田 二、三年前から、次の候補者の人選を考えて、それで私にやつてみるかと。私は何しろ檀家総代をやっているし、朝は神様でま

ずお参りして、ご仏前で法華経等を、それから、女房は浄土真宗の南無阿弥陀仏ですと、それでよろしいですと答えられて…。日本は平和ですよ。世界中の争ひの相当部分が宗教が原因でしょう。特にイスラム教は宗派や民族が違つただけで戦争しているわけですから、そういう意味では、日本というのは多神教でそれが平和の一要素なのかなと。

それで、私も教育はすごく好きで、育てることが好きだったんですね。若い人たちを育てる。だから、東京ロータリーの中に米山奨学会という奉仕活動があつて、一番好きな活動です。それなので、まあ、自分が教育するわけじゃ決まないので先生方には教育はお任せして、実際の今の仕事というのは維持・運営、お金の管理と諸設備の更新とかが中心です。

住職 私も3年半前から宗派の責任役員を務めています。その中で担当は教育部長として、私どもの宗派のお坊さんになるための小さな学校の運営に努めています。

植田ご総代が雙葉学園の理事長になられた後にお話をされた中で印象的だったのは、全国の系列の5つの学校の初めての理事長さんたちの会合のときに何が話題になったかという点で、危機管理だというお話を承つて、納得しました。今、確かに政治の世界、企業の世界にしても、トップの目が届かないところどこ何か起きたときに、やはりトップの責任として、ある程度のきちんとしたガバナンスとかコンプライアンスとかに対処する、きちんとした積み明り対応というものが迫られている時代ですと言われました。

そういう点で、学校法人というのは、教育という最も大事なことにかわりながら、運営とか経営という面で、そこどころなのだ非常に感じました。

植田 学校のマネジメントの中核そのものが立ちいかなくなつてきましたからね。ただ、理事長職は責任が重いですね。何か問題が起きた場合、何たつて理事長といえはトップですから。私は、それはもう覚悟の上です。

家業と事業

住職 妙壽寺としても、総代の内田祥哉先生のように神道、明治神宮のご総代も務められ、植田ご総代はカトリックの雙葉学園の理事長と、総代会というのはちょっと。(笑)

植田 (笑) いや、ご住職はともかくよくやられていますからね。

住職 いや、よくないです。

植田 ともかく総代会といつても、本当にこちらは承るだけであつて、ほとんど役にも何にも立っていないようなものですよ。

住職 こんでもないです。

植田 まあ、出番があるとするれば、特に募金のご協力をするとか、そういうことですよね。学校も同じで、ひたすら保護者の皆さんに物心両面のご協力をお願いするのが大切な役割の一つです。校舎の改装とか、どカーンとお金がかかりますから。理事長も先頭に立つて、いろいろとお願いをしに上がらなきゃならないと思いますね。それから、学校法人の場合も補助金があります。やはり補助金があるために何とか成り立つている。



現在のウエダジュエラー

住職 20年ぐらい前に植田ご総代から、承つたことの幾つかの中で1つ印象的なのは、事業と家業の違いということです。宗教法人の墓地が永続性みたいな話もありますけども、家業と事業というのは長いご経験の中で、やはりその辺り、大企業、中小企業もあれば、家業でやつていく。前にちよつと何かのお話のときに、例えば中国はほとんど家業はないと伺いましたが、何百年も続いている家業とか事業は、日本はぞろぞろあるわけですね。

植田 そうですよ。世界一ですよ。どちらかというと100年以上の歴史を持つている会社は、ほとんどが中小企業です。日本は世界の中でもその数は圧倒的に多いのです。**住職** その辺も日本の文化や宗教などの背景の中、変えていくところと変えないところがあるかと思いますが、その辺はどのようにお考えですか。

植田 1つは長男の結婚式で、ウシオ電機会長牛尾治朗さんは経済同友会の代表幹事で私の青年会議所の先輩ですが、ご挨拶いただいたときに、「植田さんのようなところの家業というのは、その家が代々後継者を継いでいって、世の中のためにすることをすると、それを家業と言うのだ」と述べられた言葉に僕は非常に心を打たれました。

事業というのは人がかわつてもいいのです。つまり、事業を発展させるために、むしろ変わるべきところを変えるという意味では、トップがかわつてもいいと。ただ、家業というのは一種の家訓のようなものを持っていて、その家訓というのは守るべきものとして守つていかなきゃいけない。事業はその時代時代によつて、それこそ生き残つていける企業は、富士フィルムにしても大日本印刷にしても、ものすごい勢いで事業の内容が変わつていますね。それは生き残りのためです。家業というのは逆に言うと、ある規模の中でやつていくという、いわゆる大きくしないのが家業だろうと自分では思っています。いわゆるサステナビリティ・継続性がお客様への最大のサービスということですよ。

住職 なるほど。今、急に思ひ出したのですが、親多朗会と言う会で、お寺に柱時計をご寄付頂き、植田商店さんは何よりも職人さんを大事にされるということを非常に感じました。

植田 それは近江商人の「三方よし」と同じですね。

住職 それは何でしょうか。

植田 「三方よし」とは、売り手よし、買い手よし、世間よし。近江商人の経営哲学として今でも多くの経営者に尊重されている精神



カントリーウエスタンを歌う植田総代

です。

住職 商売で、三方が円満でないとということですね。

植田 みんな円満で、ウイン・ウインの関係でなければ、事業ということでは成り立つていきませんよということですね。ちなみに、「三方よし」のうち、取引先Ⅱ職人Ⅱも大切にしており、その親睦会の名称を「親多朗会」と私の名前と重ねて付けています。

趣味「カントリーウエスタン」の魅力

住職 植田ご総代は、お仕事とか奉仕活動など、いろいろとご活躍されておりますが、植田ご総代のお人柄で、大変感心させられるのは、音楽に対する思いです。ご子息の結婚式でもご自分がバンドを組んでお出ましになられたということもありました。ご自身が前に進まれるということとは違って、何か踏みとどまつて、ご自分の趣味に生きていくということがとてもいいと私は思います。お父様が早く亡くなられたということ、音楽の道に行けなかった部分が後年出てきたと、失礼ですが。(笑)

植田 まあ、そこまで学生時代にのめり込んでいかなかったですね。むしろ4代目の息子に譲つて、ちよつと時間的な余裕や精神的な余裕ができたときに、何か余暇を生かすことがないかと。その時にたまたま声をかけてくれたのが、バンドを組んで一緒にやらないかという話があつて、それがカントリーウエスタンです。

なぜカントリーウエスタンになったかという点、これはまた話が相当さかのぼりますが、先ほどお話ししたように、約40年前まで外国のお客様が99%ですから、英語は必須なわけですよ。すごいなと思つたのは、社員が小学校しか出ていないのに英語をべらべらしやべつて商売しているわけですよ。

幸いなことに、父は私が小さいときから英会話の先生をつけてくれました。軽井沢に疎開していたほんの短い時間でも、軽井沢に住んでいたイギリス人のおばあちゃんに家庭教師として英語を教えていただき、戦後も教えてもらっていました。

それともう1つは、親からの影響を受けて英語は嫌いじゃなかったですね。特にイントネーションとか発音が大事ですね。それはやはり口から発するので、耳から聞かないと

だから、「マクドナルド」なんて言つちゃうと、向こうでは誰もわからないですよ。

だから、そういうポイントを押さえながら英会話を身につけました。戦後に入つてきたアメリカの文化は、映画とハンバーガー、それとカントリー音楽だと私は思います。まだLPレコードになる前のSP盤を六本木のレコード屋さんに、お小遣いがたまるというのに行つて、何度も繰返し聴いていました。最初のうちは何を言っているかわからないでマネをして歌っていました。だんだん中身がわかるようになってきました。

住職 ああ、そういうことですか。この間伺つたお話は、日本が受け入れる期間では、やはりカントリーウエスタンは比較的短かつた。その後にプレスリーとかビートルズが入つてきて、陰に隠れてしまつたようですが、今のお話を伺つて、アメリカの中でのカントリーウエスタンの日常性というのは、確固たるものだなと思います。

植田 アメリカへ行つて、ずっと長い間中西部をドライブすると、ラジオ局はどこを付けてもカントリーをやっている。まあ、カントリーのいいところは、ほとんどが明るいのです。マイナー調の歌はほとんどない。ですから、聞いているほうもウキウキする。それなので、70歳のときにバンドを組んでリサイタルを開きました。帝国ホテル17階のホールで、幾ら何でも2000人は来ないと思つたら、2000人來ちやつて。毎年続けて、それが今年で10年目です。

住職 ですからご趣味といつたら、お母様はお茶室も含めた日本建築、お庭ということ、植田様のほうはウエスタンカントリー、その辺のギャップと申しますか。(笑)

植田 うちの親父は三味線の弾き語りをしていましたから、小唄の名取りだった。私はもともと江戸っ子の血筋ですから、声がかいいます。マイクの乗りがいいからプラスになっています。私はね、基本的には、人様のお役に立つことは、やれる間は、元氣な間はやりたいという気持ちはあります。ただし、お引き受けした以上は、やはりベストを尽くしたい。

特に80になって、私はまだできると思つていたんですね。ところが、やはり体のほうが残念ながら劣化が早かつたということです。今は、自分の能力の範囲で、1は、申しわけないですけど、やはり学園理事長。2番目はビジネス、まだ片足を突つ込んでいますから3位がお寺です。

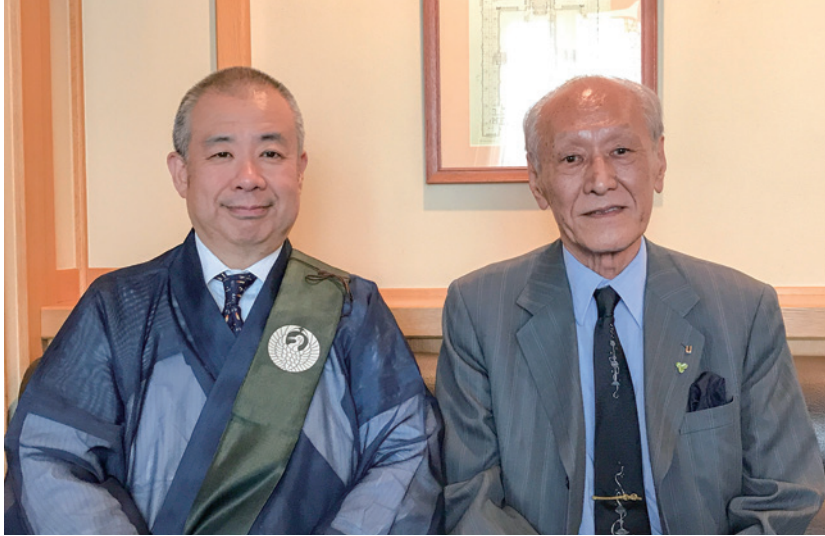
住職 ありがとうございます。(笑)

植田 すみません、トップじゃなくて。

住職 いえいえ。

植田 4、5がなくて6番目がカントリー、大体今はそのくらいです。ということに興味と健康管理はできる限り続けていこうと思つています。

住職 どうぞ今後ともひとつよろしく願ひいたします。ありがとうございます。



三吉廣明主人と植田新太郎総代